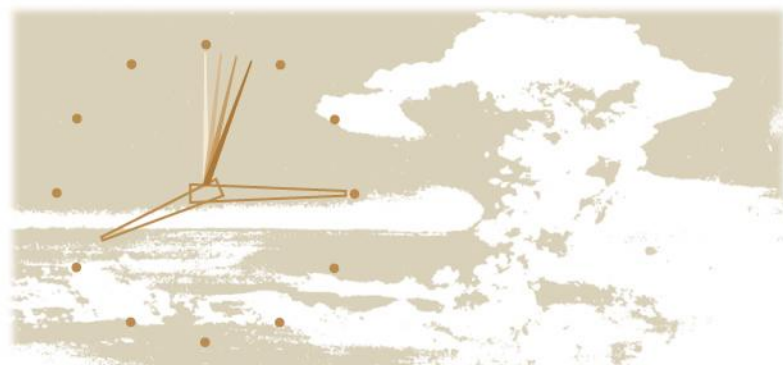


原爆の爆発後3秒間で起こること

※1945年8月6日午前8時15分に、広島上空で原爆が爆発した直後の現象を文献を基に再現した

0秒	高度600mで原爆が起爆
1/1,000,000秒	核分裂終了。この間に放射線を放出。爆弾の内部が100万℃以上、数十万気圧となり爆発
1/10,000秒	半径約14m、温度約30万℃の火球を形成
1.5/100秒	火球の半径は約90m、表面温度は1700℃まで低下し、その後上昇
0.3秒	火球の表面温度は7000℃まで上昇
1秒	火球の半径は約140mと最大化（表面温度は約5000℃まで低下）
3秒	火球は大半のエネルギーを出し尽くす



約10秒	都市壊滅。火災が発生
3分後	人々はキノコ雲を見る
20分後	火災のちりと放射能を含む黒い雨が降り始める

広島市街地が核兵器攻撃された場合の被害想定

核兵器の種類 (威力・爆発形態)	死者数	負傷者数
水爆 (1メガトン・高度2400m)	37万2000人	46万人
原爆 (16キロトン・高度600m)	6万6000人	20万5000人
原爆 (16キロトン・地上)	5万5000人以上	14万6000人以上
原爆 (1キロトン・地上)	1万人以上	5万人以上

※地上爆発の場合、放射性降下物の影響で死者はさらに増える

くいずれも「核兵器攻撃被害想定専門部会報告書」から>

内閣官房の保護マニュアル「核爆発の場合の留意点」

※内閣官房国民保護ポータルサイト「武力攻撃やテロなどから身を守るために」から
http://www.kokuminhogo.go.jp/pdf/hogo_manual.pdf



「上着を頭から被り、口と鼻をハンカチで覆うなどにより、皮膚の露出をなるべく少なくしながら、爆発地点からなるべく遠く離れましょう。その際、風下を避けて風向きとなるべく垂直方向に避難しましょう」



「屋内では、窓閉め・目張りにより室内を密閉し、できるだけ窓のない中央の部屋に移動しましょう」